

令和元年度 研究推進だより

# のびのび石川っ子

令和2年3月16日

1年を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりに取り組んできました。

石川小道徳の授業のスタンダード」を作り、授業実践を積み重ねる中で、自分事として考え、自分の生活と結び付けたり、生かしたりする児童が増えました。授業の中に対話を意識して組み込むことで、発言が活発になってきました。道徳アンケートの結果より、道徳の授業は、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞くことが楽しい、また高学年になるにつれて自分や人について考えたり、知らなかったことが知れたりするので楽しいと感じる児童が多くなりました。

また、道徳的価値を意識した行事を行い、異年齢での活動や話し合い活動を充実させてきました。児童同士が上手にかかわれるようになり、高学年はリーダー性が育ってきました。よき伝統として下学年に引き継いでいきたいです。

## <対話的な掲示版コーナー>

### 4年 報告します、みんなの生活



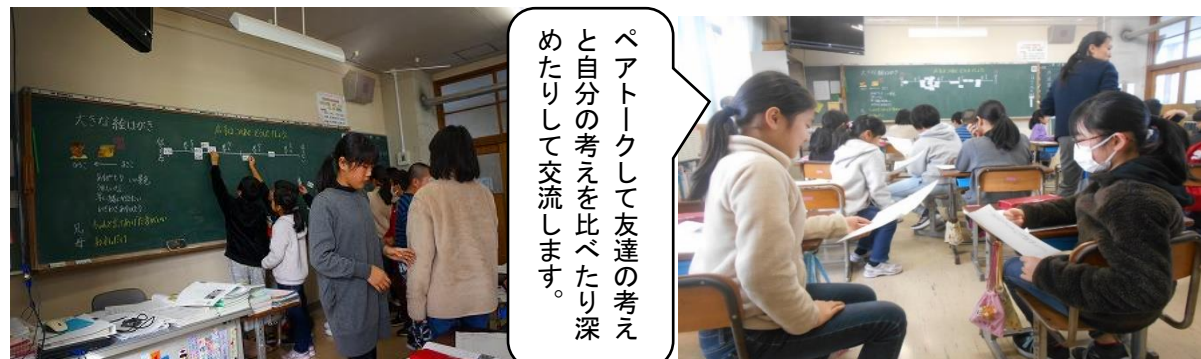
全校児童にアンケートを取って、生活実態についてポスターにまとめました。給食時にも放送でアンケート結果を報告しました。



## <公開授業の様子> 4年「大きな絵はがき」

【あらすじ】

転校した友達から絵葉書が届いた。しかし、定形外郵便だったため切手の料金が不足していた。主人公は、母の「お礼だけ言った方がいい」という言葉と兄の「忠告してあげた方がいい」という考えの間で揺れ動く。相手を思いやり、信頼できる友達関係を築くために主人公はどう決断したか…



ペアトークして友達の考えと自分の考えを比べたり深めたりして交流します。

友達に伝えるか伝えないか自分の考えを黒板に貼ります。

「自分だったら〇〇です。理由は…」積極的に意見を発表します。



## <異年齢活動の充実>

チーム対抗大縄大会。練習では高学年が低学年に跳ぶタイミングを教え、背中を押ししたり掛け声をかけたりしてだんだんたくさん跳べるようになりました。当日は、たくさんの声援の中で、練習の成果が出せました。振り返りでは、自分や友達の頑張りを認め合いました。

